

事例3

テーマ：ペーパーレス化の取組

概要：記録ソフトを活用し手書きからパソコンへ直接入力することで、業務効率・ペーパーレス化を図り、またパソコン入力が苦手な職員、外国人介護職員も全員使用できるようにする。

事業所概要

事業所名：特別養護老人ホーム美里園（海草郡紀美野町安井6番1号）
サービス種別：介護老人福祉施設（定員：50人）
介護職員数：24人（日本人：11人、外国人：13人）
プロジェクトメンバー：介護職員、看護職員、生活相談員、介護支援専門員、事務職員

事業所が抱えていた課題（取組に至った背景）

課題：記録や事故報告書が紙ベースで回覧されていたため、回覧している時にどこかに紛れ込んでしまい回るのに時間がかかる、集計や報告書が遅れてしまうといった事態が頻繁に起こっていた。また手書きが苦手な外国人介護職員の場合は日本語での表現が曖昧なところ、意味の伝わりにくいところなど、添削し何度か、ひやりはっと・事故報告書をやり直ししてもらわなければならないといった課題があった。

- ◆ 事故・ひやりはっと報告書の作成・閲覧に時間がかかり、同一利用者の事故、同様の事故・ひやりはっとの発生抑止につながらない。
- ◆ 申し送りについて、分かりにくい記録や、伝わっていないことがある。
- ◆ 日常の排せつ、食事、入浴について記録用紙に記入してから介護ソフトへの転記をしているため、非効率。
- ◆ 外国人介護職員の文字・数字の読みづらさ。

課題解決のプロセス

報告書を手書きからパソコン直接入力（タッチパネル型）に移行し、パソコン入力が苦手な職員も全員使用できるように進めていく

- Step1 報告書関係の業務棚卸シート作成
- Step2 介護ソフトの定型文の整理
- Step3 ノートパソコン購入
- Step4 全職員が排泄記録から介護ソフトにパソコン入力し徐々にステップアップを図る

取組時のポイント・工夫

- **手書きからパソコン入力へスモールステップ**
簡単な入力から、徐々に入力業務を増やしていく。
- **期限を決め職員全員がパソコン入力できるよう進める**
全員がパソコン入力できるように期限を決めて紙からパソコン入力へ進めていく。

質的な成果

- ✓ パソコン入力を行う専属の事務職員がいたが、職員全員で入力することにより事務職員が別の業務を担えるようになった。
- ✓ パソコン入力することで外国人介護職員の文字・数字の読みづらさは解消された。

量的な成果

- ✓ 転記作業をなくしパソコンへの直接入力へ変更→1日160分短縮できた

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

パソコンに対してアレルギーのある職員も介護ソフトの定型文を整理し、業務棚卸をしたことにより分かりやすくなり、積極的に取り組んでくれた。手書きからパソコン入力に変えたことで報告書関係の回覧の時間短縮につながった。また外国人介護職員の文字入力・数字入力の読みづらさが解消され、負担軽減になった。パソコン入力が苦手な職員や外国人介護職員にもスモールステップで進め期限を定めることで入力業務に取組むモチベーションも維持されるので少しずつ改善できるようサポートすることが大切だと思う。